

平成23年度 自己評価計画に対する中間評価結果

中間評価のできる項目については、備考の欄に太字で示してあります。年度末にのみ評価する項目については予定のみ示してあります。

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1 学習指導と進路指導の充実を図る。  個に応じた指導による基礎・基本の定着  確かな学力の増進  普通・芸術・外国語の各コースの特性を活かした進路指導の充実	① 授業の進め方を工夫し、生徒が授業に集中し、学習活動に参加するようにする。	教務課 各教科	授業に集中できない生徒に対して、こまめな指導をしている。	【成果指標】 わかりやすい授業を実践し、授業の進め方や教材を工夫し、学習活動に集中する生徒の増加を目指す。	授業に集中し、学習活動に集中していると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	<b>7月に実施した生徒のアンケートでは、83%であった。</b>
	② 前・後期に、各1回校内公開授業週間を設け、研究授業・研究協議会等を充実する。また、研究授業における協議内容を全職員に報告する。	教務課 各教科	年2回の公開授業週間において、他教科の授業も含め、参観の機会が設けられているが、参観するだけでなく、各教科で研究協議会を適宜行い、授業改善に向けた検討が必要である。	【努力指標】 公開授業週間等を通して、積極的に授業参観を行う。また、各教科で研究授業や研究協議会等を実施し、授業改善へ向けた具体的な取組について検討する。なお、研究協議会等での成果や課題は全職員で共有する。	公開授業週間等に他の教員の授業を参観した回数が年間 A 5回以上である B 4回である C 3回である D 2回以下である	A+Bの割合が80%未満の場合は、改善策を検討する。	<b>7月に実施した教職員のアンケートでは、現在A+Bは、22%であった。</b>
	③ 家庭学習の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各学年 各教科	年度当初、国・数・英を中心に学年ごとの年間計画を定め、教科ごとに2週間に1度程度の週末課題を与えている。また、課題提出を評価に加え、学習時間の増加を図っているが、生徒個々の家庭学習時間は少ない。	【成果指標】 各教科で計画的に週末課題を含む課題を効果的に与え、その提出を徹底させて、家庭学習習慣を確立させる。	課題の提出率が A 90%以上である B 70%以上である C 50%以上である D 50%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	<b>7月に実施した生徒のアンケートでは、75%であった。</b>
	④ キャリア教育を充実させ、高校生活における個々の目標を設定させる。	進路指導課 各学年	生徒の約60%が本校に入学したことに満足し、進路ガイダンスも適切であると答えているが、目標を持った生徒個々の具体的な取り組みはまだ不十分である。	【満足度指標】 キャリア教育の充実が図られ、3年間の高校生活の目標を持って、本校に入学したことに満足感を持っている。	本校に入学して良かったと思う生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	<b>7月に実施した生徒のアンケートでは、75%であった。</b>
	⑤ 個人面談等を効果的に活用し、進路目標の明確な設定を図る。	進路指導課 各学年 各教科	生徒の約7割が具体的な進路目標を持っていると答えているが、そのための学習のプロセスが不明確な生徒が多い。	【満足度指標】 明確な進路目標をもち、その目標の達成にどのような学習活動が必要か理解している。	具体的な進路目標を持っている生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	<b>7月に実施した生徒のアンケートでは、69%であった。</b>
	⑥ 生徒に学習目標を設定させるとともに、個に応じたきめ細かな指導により、学力の向上を図る。	進路指導課 各学年 各教科	学年が進行するに従い学習意欲が低下する傾向が見られる。また、推薦入試に安易に依存する傾向がある。	【成果指標】 校外模試の結果を適切に自己分析し、次回の模試へ向けて新たな目標を設定させ、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。	前回よりも成績が上昇した生徒の割合が A 70%以上ある B 60%以上ある C 50%以上ある D 50%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施された校外模試を元に調査する。 (11月)
	⑦ 視野を広げるとともに、考える力や表現力を伸ばすため、3年間を見通した小論文指導を行う。	進路指導課 各学年 国語科 小論文委員会	推薦入試における小論文・面接指導の成果は出ているが、さらに多くの教員が積極的に関わり、より効果的な指導が行われる必要がある。	【努力指標】 小論文委員会の計画に基づき、研修・実践を定期的に行い、各教員の指導力の向上に努める。	小論文指導に積極的に参加することができたと答える教員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	年度末に実施する教職員に対するアンケートで確認する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
2 望ましい基本的な生活習慣を確立する。  遅刻や欠席の減少 挨拶などの礼儀指導 端正な服装容儀 規範意識の高揚	① バスの乗車マナーや自転車運転マナーの向上を目指す。	生徒指導課	バスの乗車マナーは改善されつつあるが、自転車運転マナーについては、交通安全へ向けた交通規則の遵守が不十分である。	【成果指標】 バスの乗車マナーや自転車の通学マナーがよく身につき、交通安全を心がけている。	通学マナーが良いと答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した生徒のアンケートでは、92%であった。
	② 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導（生徒心得の遵守）を全職員で行う。	生徒指導課	定期的な登校指導・服装検査の他に、終礼時等に、学年の正副担任による服装容儀検査を実施している。頭髪については、良くなっている。	【成果指標】 服装や頭髪などの身だしなみが人の「心を表す」ものであるという自覚を持ち、服装容儀に関する生徒心得を遵守している。	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した生徒のアンケートでは、84%であった。
	③ 「遅刻防止週間」を毎月1回設け、遅刻の減少を目指す。	生徒指導課 各学年	遅刻者数は、「早朝登校」や「放課後の居残り指導」などで減少しているが、基本的な生活習慣の改善が必要である。	【成果指標】 遅刻者数が前年度より減少する。	年間の遅刻者の延べ人数が A 800人以下である B 900人以下である C 1000人以下である D 1000人を超える	Dの場合は、改善策を検討する。	7月末までの集計では、469名であった。（昨年度は、371名）
3 豊かな人間性と社会性を育成する。  文化創造の意欲と資質の向上 ボランティア精神や環境保護の精神の涵養	① 人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	相談室 各学年 各教科	過去2年間、文科省指定の「道徳教育」の実践研究を行ってきたので、その成果として効果のあった取り組みを継続的に実践し、生徒に人間としての在り方・生き方を考えさせていきたい。	【満足度指標】 構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人の接し方について理解し、人間関係づくりに役立ったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人の接し方について理解し、人間関係づくりに役立ったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した生徒のアンケートでは、59%であった。
	② 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒会 各学年	年間3回の近隣地域でのボランティア清掃を実施している。地域に根ざした奉仕活動のあり方を考え、今後も継続・実践していきたい。	【努力指標】 年間を通して近隣地域でのボランティア活動に積極的に取り組み、奉仕活動の意義を理解する。	ボランティア活動に参加する生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した生徒のアンケートでは、38%であった。
	③ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO <sub>2</sub> の削減等を目指すとともに、環境保護の精神を培う。	環境保健課	「学校版環境ISO」に基づき、本校の具体的数値目標の達成に向けて、エコ活動を充実させる必要がある。	【成果指標】 生徒・職員全体がエコ活動に積極的に取り組む。	エコ活動の取り組みに積極的であると答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施したアンケートでは、生徒は71%、教職員は95%であった。

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考	
4 時代を生きぬく、積極的で活力のある人間の育成を図る。  部活動の活性化  生徒会活動の活性化  健やかでたくましい心と体の育成	① 1年生には全員部活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	生徒会 各学年	部活動の加入率は88%と高いが、実際に活動している生徒の割合が低い。	【努力指標】 部活動の加入者を増やすと共に、実際に活動している生徒の割合を増やす。	部活動に加入している生徒で、実際に活動している生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した調査では、95%であった。	
		生徒会	運動部の活動が低調である。部活動が活性化するような環境作りや指導体制のあり方等を検討する必要がある。	【努力指標】 学校全体として、部活動の環境づくりを含め、顧問の部活動への関わりを強化する。	部活動指導が強化され、部活動が活性化されたと答える教職員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した教職員のアンケートでは、79%であった。	
	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通じた体力の向上を目指す。	体育科	2年女子の体力がやや低いが、体力向上に取り組む意欲は高い。各種行事を通して、自己記録が更新できるよう指導を継続する必要がある。	【成果指標】 ランニングロード(1周130m)における、男子20周の平均タイムが12分30秒に、女子10周の平均タイムが7分45秒になることを目指す。	男子で12分30秒以内、女子で7分45秒以内の記録を達成した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	年度末に集計し、確認する。	
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感をもてる生徒会行事を企画・運営する。	生徒会 各学年	新入生歓迎会・スポーツ大会・学園祭等に、積極的な生徒の参加がさらに得られるようにしなければならない。	【満足度指標】 生徒会行事が充実したものとなり、達成感が得られる。	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月末までの生徒アンケートでは、平均すると76%であった。	
	5 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。  広報活動の充実  開かれた学校づくりの取り組みの推進	① 地域及び小中学校等との交流活動やカリヨンニュース等の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	各コースの特性を活かした取り組みをさらに充実発展させ、近隣地域、小中学校等との交流活動の活性化や、各種の広報紙を含めた広報活動を充実させる必要がある。また、学校開放講座や図書館開放も積極的に行っている。	【努力指標】 近隣地域住民、小中学校等への広報活動の成果を上げる。	各種の交流活動や広報活動を通して、学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した保護者のアンケートでは、85%であった。
			総務課 各コース	ホームページの情報更新が滞ることがある。各ページの構成や見やすさの改善を図り、より充実した情報を、保護者、児童生徒、地域住民等へ提供する必要がある。	【成果指標】 ホームページの情報等の更新を速やかに行い、また、本校の教育活動や取組が理解しやすいものにする。	ホームページを通して情報の発信が適切に行われていると答える保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	Dの場合は、改善策を検討する。	7月に実施した保護者のアンケートでは、78%であった。

平成22年度 自己評価計画書（追加・修正）

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考